

コラム ラウンドアバウトの実用化に向けた実験

平成 26 年 9 月、寒地交通チームはラウンドアバウトの実用化に向けた大規模実験を、国土技術政策総合研究所と連携して苫小牧寒地試験道路のラウンドアバウト（外径：27m）で実施しました。本実験は、ラウンドアバウトの適用条件と構造決定を支援することを目的とし、多数の試験車両を同時に走行させ、交通挙動を観測したものです。ラウンドアバウトとは、「環道交通流に優先権（中央島を中心に時計回り）を持つ新たな交差点制御方式」のことです。旧来のローター交差点は外径が比較的大きい（概ね 50～70m）のに対し、ラウンドアバウトは外径がコンパクト（概ね 27～35m）であり、速度抑制及び事故被害軽減が達成されることから、諸外国で普及が進んでいます。

同試験道路のラウンドアバウトは、日本国内での実導入に先立ち、基本性能を検証することを目的とし、平成 21 年度に寒地交通チームが設計・施工したものです。設計に際しては、ドイツの「ガイドライン（2006 年発行）」を参考にしました。同ラウンドアバウトを実験フィールドとして、寒地交通チームはこれまでに様々な関係機関（国土技術政策総合研究所、警察庁、（公財）国際交通安全学会など）と連携・協力して、実用化に向けた実験を行ってきました。平成 21 年度以降、（公財）国際交通安全学会研究プロジェクト「ラウンドアバウトの実用展開に関する研究」に寒地交通チームの宗広主任研究員がメンバーとして参画し、苫小牧寒地試験道路での実験を主導したのをはじめ、長野県飯田市吾妻町でのラウンドアバウト社会実験、我が国初の本格的な導入事例となった飯田市東和町ラウンドアバウトの実現に尽力しました。これらを経て、平成 26 年の道路交通法改正施行及び国土交通省課長通知「望ましいラウンドアバウトについて」の発出に貢献しました。

また、平成 26 年 5 月には、警察庁による「環状交差点の交通方法」に関する映像撮影が、寒地交通チームの協力の下、苫小牧寒地試験道路で行われました。これは、平成 26 年 9 月 1 日からの道路交通法改正の施行を控え、環状交差点（ラウンドアバウト）の通行方法を道路利用者に周知することを目的としたものです。本 DVD の映像は、警察庁の WEB サイト：<https://www.npa.go.jp/koutsuu/index.htm> から閲覧できます。

寒地交通チームの活動は、今後、ラウンドアバウトの安全性やランドマーク機能を活用したまちづくり・地域づくり等を通じて、地方創生への貢献も期待されるところです。



写真-1 ラウンドアバウト実験

（於：苫小牧寒地試験道路、平成 26 年 9 月）



資料-1 環状交差点（ラウンドアバウト）の交通方法の DVD（警察庁製作）